

「ふっん!!  
うぐっ!!」

「あゝすっげ…  
千聖ま●こヤバすぎ…ッ!」

「千聖ちゃん  
まさか初物とはね〜」

「だな  
お偉いさんか俳優に  
やられてると思ってたぜ」

「こ…んな…  
こと…し…」

「俺のために  
取っておいてくれたんだな  
ありがとな千聖(笑)」

「ち…が…  
ひっんんぎッ!!」

「ふ…ッふ…ッ!!  
俺の特濃精子たっぷり注いでやる  
ちやんと孕めよ千聖♡」



「え…えッ…  
そ…そんな…  
にん…し…」

「何言ってるんだ  
セックスは  
赤ちゃん作る為にするんだぜ  
俺の赤ちゃん産んでくれよ千聖♡」

「ひッ!!  
い…嫌いやいやあああッ!!」

「俺と千聖の赤ちゃん  
すっげえ可愛い子になるから  
な?だから安心して孕めって(笑)」

「やめて!止めて止めてッ!!  
お願いします臍内は!  
臍内だけはッ!!」

「孕めッ孕め千聖!!  
初物ま●ご種付けで孕めえええッ!!」



「うお…す…げ…♡  
気持ち…ち…良すぎ…ッ!!」

「う…や…あ  
ひッ…うぐ…」

「ふ…お…  
へへッどうよ千聖  
初めての子作りセックスは？(笑)」

「あ…かちや…ん  
いや…いやあ…」

「だよな…千聖ちゃん  
こんな奴のガキなんて嫌だよな  
千聖ちゃんが欲しいのは  
俺様のガキだもんね♡」

「ひッ!？」

「ゴイツで千聖ちゃんも  
ちゃんと気持ち良くしてやるよ。」

「い…いや…いあ…  
たす…け…  
お…ねがい…し…ま…」



ド  
ッ

びん  
びん

びん

びん  
びん

がく

がく

がく

びん









